

テーマ2 こどもの未来

こどもまんなか社会

少子高齢化が進展し、人口減少に歯止めがかからない中、津市はこれまでもこどものための施策に取り組んでまいりました。昭和48年に旧津市が創設し今なお県内で津市だけが実施している**妊産婦医療費助成制度**は、現在のように人口減少が課題として広く認識されていない中、乳幼児や障がい者などを対象として行っていた医療費助成の対象を拡大し、妊産婦の保健の向上に寄与することを目的に創設した制度であり、こどもまんなか社会に向けた極めて先行的な取り組みです。

近年は、**出会い応援事業**や不妊治療の保険適用に伴う新たな**特定不妊治療費助成**など、さらに一步踏み込んだ施策も展開してまいりました。また、保育所等の定員拡大や認定こども園の設置等による**待機児童ゼロ**の維持、**放課後児童クラブ**の整備やその運営補助の増額など子育てしやすい環境づくりを深化させてきました。

コロナ禍や物価高騰においても、こどもや安心して子育てできる環境のことを考え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対しては、臨時休業措置等の状況に応じた**家計特別支援金**の給付や**給食費3カ月分相当**を給付する支援などを実施してきました。物価高騰に対しては、0～18歳の児童1人当たり1万2,000円を給付する**子育て家庭物価高騰対策支援金**の給付などに取り組んでまいりました。引き続き、保育所や小中学校等の**給食物価高騰対策**を講じてまいります。



保育所で遊ぶ子どもたちの様子

国が昨年実施を決定した**出産・子育て応援給付金**は、いち早くお届けすることを最優先に当面は現金給付を継続するとともに、妊婦・子育て家庭に寄り添う**伴走型相談支援**を着実に進めてまいります。また、**高茶屋地区**において令和7年の開園を予定している**民間の認定こども園**の施設整備への支援、とこための里一志に移転する**一志放課後児童クラブ**の整備などを行い、子育て環境のさらなる充実を図ってまいります。**小中学校の校舎の長寿命化**については、

年3校の改修を実施してきましたが、令和5年度は2校の改修工事に加え5校の改修工事に向けた実施設計を行い、こどもが安心して学習できる環境づくりを加速化してまいります。

新たな政策展開

4月からは国の**こども家庭庁**も動き出し、こどものための政策が総合的に推進されることとなります。津市においてもこれまでとは違うフェーズの施策を展開し、こども政策の充実を図り、設置が努力義務化された「**こども家庭センター**」の開設に向けた調査研究も進める必要があることから、子育て推進課子育て推進担当を同課こども・子育て政策担当に改編いたします。地域の実情に応じたこども・子育て施策を推進するためには、多様な分野での視点、取り組みが求められます。あらゆる部局において常にこどもの未来を見据え施策の立案を行っていくことが、これからのスタンダードとなります。

昨年5月に**人口減少対策会議**を設置し、出生率や都市の魅力の向上に資する新たな取り組みについてさまざまなアイデアを基に、事業化に向けた検討を進めています。さらに協議・検討を深め、一つ一つを具現化してまいります。

テーマ3 地域の未来

環境

昨年8月に**地域脱炭素宣言**を行い、非常に多くの反響をいただき、さまざまな民間企業や団体から地域脱炭素への具体的なアイデアや取り組みなどの提案をいただいております。賛同のご意思を寄せてくださった**民間企業等とのパートナーシップ協定**を締結し、ペットボトルの水平リサイクル(BtoB)や羽毛製品のリサイクルの推進など既に具体的なアクションを展開しています。

令和元年に国が二酸化炭素の削減などの多面的機能を有する森林の適正な管理を促進する新たな森林経営管理制度を創設しました。津市はその創設と同時に**未整備の人工林解消**に向けた事業をスタートさせ、全国トップクラスの速さで事業を進めています。令和3年度からは5ヘクタール未満の小規模森林の間伐や植栽を支援する**小規模森林整備促進事業**を開始しました。加えて、地域産材を使用して市内に新たに個人住宅を建築する人を支援する**木材利用促進事業**にも取り組み、地域産材の需要拡大や利用促進を図るなど、国から配分される**森林環境譲与税**を**ほぼ全額活用**し、国土と環境を守り育む森林資源